

## 復興へのあゆみ vol.18

復興に向けて一。あゆみを進める人を紹介します。

### ピンチをチャンスに。明るい話題を提供したい

平成30年7月豪雨では、奥谷さんが住む吉田町奥南地区も、土砂崩れなどの大きな被害を受けました。「災害をきっかけにボランティアなどで多くの人が宇和島を訪れ、支援をもらう中で宇和島のことを知ってもらった。そのチャンスを見分なりに生かしたい」と奥谷さんは話します。奥谷さんは以前から、地元の大工さんと共同で、間伐などで使わなくなったミカンの木を加工して楽器づくりに取り組んでいました。そんな中、豪雨災害により多くのミカンの木が流されてしまいました。そこで奥谷さんたちは、その

廃材を活用してギターを制作し話題づくりを目指しました。ところどころ黒ずんでいるのは土砂に埋もれていた部分だそうで、被災の跡が垣間見えます。令和元年5月には復興を目的としたイベント「みかんフェスティバル」を地元で企画しました。災害ボランティアでつながりを持った人たちを含め200人以上が集まりました。さらに奥谷さんは、発災から2年5ヶ月が経過した今、新たな取り組みとして地元の空き家を活用したゲストハウスを作りました。この空き家は災害当時、地域の人が集まっ

## 災害復興掲示板

本庁 ☎24 - 1111

吉田支所 ☎52 - 1111

三間支所 ☎58 - 3311

津島支所 ☎32 - 2721

宇和海支所 ☎62 - 0311

※詳しくは、お問い合わせください。



NPO法人奥南でざいんセンター  
代表 奥谷 篤巳さん

### profile

吉田町奥南地区のかんきつ農家。県外の音楽専門学校を卒業後、Iターンで家業を受け継ぐ。なんとなく継いだかんきつ農家も、「今が一番楽しい」と話すほどその魅力に惚れ込んでいます。

## 平成30年7月豪雨

宇和島市災害記録誌制作に寄せて

「あのときの声、あのときの想い」募集

忘れないでほしい、覚えていてほしい、誰かに聞いてほしい、あのときの記憶を後世に届けられるように…。宇和島市災害記録誌に掲載する、皆さんの伝えたい声を140文字以内で募集します。

【内容】平成30年7月豪雨で被災したときに、感じた想いや後世に伝えたいことなど

【対象】本人もしくは身近な人が被災した人や平成30年7月豪雨により本市と関わりを持った人

【期間】2月28日(日)まで

【応募】市役所、各支所、吉田地区各公民館、市立吉田病院に備え付けのアンケート用紙に記入し回収ボックスに入れるか、Web専用フォームから申し込んでください。



あのかつてない大きな災害の経験は、私たちの忘れられない記憶として刻み付けられました。その記憶を後世へと伝え残し、未来に役立てられるように。皆さんの声をぜひお寄せください。

【問合先】佐川印刷(株)(平成30年7月豪雨 宇和島市災害記録誌制作業務受託事業者) ☎089-925-7206



【掲載イメージ】



古民家を改装



ミカンの木の楽器。虫食い箇所があるのも味



1軒貸しのゲストハウス「凧ハウス」が12月に完成

たりボランティアが滞在する拠点になったりと、たくさんの人のつながりが生まれてきた場所です。「凧ハウス」と名付けられたこの家は、広い座敷と台所があり、人が集まるにはもってこいの環境です。ミカンの木で作った楽器のほか、奥谷さん厳選の音楽やマンガなどが置かれています。

奥谷さんは、「災害をきっかけに人がつながることの価値を改めて感じた。この場所を多くの人に使ってもらって、奥南地区で人のつながりを生み続けたい」と話してくれました。